

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業
 経常事務事業
 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連 有 ・ 無
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	こころの健康づくり講演会等開催事業(シンポジウム含む)								
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者	健康推進担当係長	二宮眞由美
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉			基本施策	成人・老人保健		コード	2 1 1
	項	「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			単位施策(中)	こころの健康づくりの推進		コード	2 1 1 5
		健康			単位施策(小)	こころの健康づくりの推進		コード	2 1 1 5 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		こころの健康づくりへの関心を高まったり、心の病や障害を持つ人たちへの理解が深まる。			
1-5 事務事業の内容	有識者を招いての講演会や関係機関の職員を交えてのシンポジウムなどを開催する。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取り組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	障害者自立支援法の施行から1年が過ぎ、心の病や障害について理解し障害を持つ人と共に歩むやさしい街づくりを考えるための第一歩とした。	ますます、こころの健康問題には関心が高まってはいるが、まだまだ心の病や障害を持つ人たちの理解は不十分である。	こころの健康問題について関心が高まっている現状を受けて、提供する情報の選択や働きかけについて多様性が求められるところである。		
平成19年度	現代社会の中でこころの病気がかかっている人が増えている。こころの病気について正しい知識を普及し理解を深め	"	"			
平成20年度	少し視点を変え、「笑いと健康」をテーマにし笑いの効用を広める場とした。	"	"			
平成21年度	健康づくり教室の中で、心の健康について学べる場を持つ	働き盛りの「うつ」「自殺」が重要な社会問題となっている。また、病気に対する理解の不足で、周囲との孤立感や家族等のストレスもある。	こころの健康問題について関心が高まっている。また、家族・周囲の人はこころの問題でどのように対処したらいいか悩んでいる人も少なくない。			
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	こころの健康づくり講演会(シンポジウム含む。)参加数		100人/1(回)	100人/1(回)	社会情勢的にも心の健康問題への関心は高まっており、有識者を交えての講演会等の開催はその対策の充実度を表す指標 【資料】とよあけの保健

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単位)		110(人)	111(人)	61(人)	39(人)					
直接事業費 b(千円)		76	52	30	7						
人件費 c(千円)		198	186	39	16						
合計コスト d(b+c)(千円)		274	238	69	23						
単位コスト d/a(千円)		1人当たり 2.5	1人当たり 2.1	1人当たり 1.1	1人当たり 0.6	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 【直接事業費】 臨時職員賃金 1,310円×2.5h×2×1人=6,550円 【人件費】 5時間 3,200円×5時間=16,000円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(人)	110	111	61	39						
	後期目標値に対する達成度(%)	110.0	111.0	61.0	39.0						

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A						

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	こころの健康問題への関心は、年々増加傾向にあり対応が望まれるところ。また予防という視点から正しい最新情報を伝えていく必要がある。	関係機関や施設とも連携しながら協働事業を進めていく。	講演会については、当事者・家族・福祉・医療・保健というそれぞれの立場での情報交換がされ、市民の関心が高まった一機会となった。		
平成19年度	"	講演会のみではなく、他の事業のなかでこころの健康について学べる機会が必要。	身近なテーマとしたため参加希望者が多かった。こころの病気について理解を深める場所となった。			
平成20年度	"	"	内容が「講演と、笑いの実践」のため、会場の広さから60人定員とした。今後もいろんな視点から内容を考える。			
平成21年度	"	健康づくり教室でこころの健康について学べる機会をつく	健康づくり教室の中でこころの健康について学べる機会を設けた。内容を充実させることが必要である。			
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	B	参加希望がありながら、参加できなかった人々の対策を検討すること。	
平成21年度	B	参加者の増加に努めること。	
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			